

| | |
|------|-----|
| 自治体名 | 奈良県 |
|------|-----|

女性の健康支援対策の概要

女性特有の疾患への対応が重要となる中、若い世代では「やせすぎ」や不適切な栄養バランス、子宮がん発病の低年齢化、中高年世代では、更年期問題、乳がんの増加などが課題となっている。

そこで、若い世代からの健康づくり対策が非常に重要となる。本県ではこれを促進するため、県内の4大学と連携し、健康づくりを自ら実践し、さらに同世代の若者や地域の住民に対し健康づくりの支援を行っていく大学生によるサークルを創設し、若い世代からの健康づくり活動の推進を図る。また、更年期対策としては、健康保険協会・市町村等と連携し、健康情報の提供を行うことにより健康づくりの実践とがん検診受診促進のための啓発活動を行う。

自治体の特徴

本県は紀伊半島の中央に位置し、海のない内陸県であり、古代より都が置かれ、その長い歴史の中で遺跡、文化財が多く存在し自然に恵まれ、本県の大きな魅力となっている。北西部は大阪のベッドタウンとして人口が集中し、南部は険しい山々が連なり人口の過疎化が進んでいるという特徴を併せ持つ。女性就業率は39.5%(全国47位)である。

人口構成・(H21.10.1現在)

| | 総数 | 男 | 女 |
|-------|-----------|---------|---------|
| 人 | 1,426,016 | 681,285 | 744,731 |
| 割合(%) | 100 | 47.8 | 52.2 |

| | | | |
|--------|---------|---------|---------|
| 15歳未満 | 189,712 | 97,143 | 92,569 |
| 15～64歳 | 908,562 | 441,677 | 466,885 |
| 65歳以上 | 327,742 | 142,465 | 185,277 |
| 75歳以上 | 147,519 | 56,066 | 91,453 |
| 85歳以上 | 39,092 | 10,583 | 28,509 |

女性に関する健康課題

平成19年度に実施した奈良県健康・栄養調査によると男性の肥満者の割合は30～60歳の各年代で3割を超え、女性では20歳代の2割弱がやせであった。また、20歳代女性では、野菜の摂取量が1日240gと成人の中で一番少なく、運動習慣のある者も10.3%と最も低かった。このように、特に若い女性の食および生活習慣に大きく課題がある。

また、女性特有のがん検診受診率は子宮頸がんが県平均16.9%、乳がんが13.5%と低く、実施主体である市町村も受診率の増加に向け、効果的な方法を模索している状況である。

事業費(千円)

| | |
|-------------------------|------|
| (1) 思春期から30歳代における健康支援事業 | 623 |
| (2) 中高年期における健康支援事業 | 588 |
| (3) 女性のがん支援事業 | 6305 |
| 計 | 7516 |

(1) 思春期から30歳代における健康支援事業

| | |
|---------|--------------------------------|
| 事業名 | 「大学生ヘルsteam（ヘルsteam菜良）」事業 |
| 分野 | ■健康教育 □健康手帳の交付 □健康相談 |
| 事業費（千円） | 623千円 |

事業目的

女性特有の疾患への対応が重要となる中、若い世代では「やせすぎ」や不適切な栄養バランス、子宮がん発病の低年齢化などが課題となっている。そこで、大学生が自らの健康を見つめ直し、得た知識や体験を通じて同世代や地域住民の健康支援活動の企画・運営を実施する大学生のサークル（ヘルsteam菜良）を県内大学との連携により設置し、若い世代に対する同世代からの働きかけによる波及効果により、女性の健康支援活動をより効果的に行う。

事業対象

県内の大学の1・2年生

事業実施体制・展開

- ①県内の管理栄養士養成施設（大学）に対し、本事業の目的、主旨を説明し参加大学を決定するとともに、協力を依頼する。（結果的にすべての大学（4つの大学）が参加する。）
- ②大学の担当教員に1・2年生でヘルsteamに参加する学生を募ってもらい、その学生に対し本事業の目的・主旨等を説明するとともに、基礎知識として奈良県（または国）の健康課題等についての研修会を県が実施する。
- ③ヘルsteamの学生に女性のがんについての講演会を開催。（講師：女性専門外来の産婦人科医）
- ④各大学のヘルsteamの交流会の開催。
交流会で活動報告や女性のがん予防キャンペーンの企画を検討することにより、互いに刺激しあい、また連帯感、仲間意識をつける。
- ⑤各大学で以下の活動を実施
 - 大学祭あるいはオープンキャンパスにおいて、学生の企画・運営による健康づくり（主に食生活・栄養）の啓発活動を行う。
 - 各大学の健康課題を踏まえて、学生食堂で提供したいメニューの考案。（女性のがん予防キャンペーンで発表）
 - 女性のがん予防キャンペーンにおける食生活・栄養改善を主とした啓発活動の実施。

事業目標・評価項目 及び その結果

- ①ヘルsteam参加学生の意識の変化
（反省会での学生の意見） 栄養・健康に関する知識の習得の重要を認識した。
ほとんどの学生が来年度も活動を継続し、活動目標を決め評価ができる活動を行っていくことの必要性を感じている。
- ②ヘルsteam参加学生の活動の内容の変化 具体的な活動目標を立て、それに沿った活動を実施した大学の数
大学祭では1大学 → がんキャンペーンでは4大学すべて
- ③ヘルsteamの認知度 来年度のヘルsteamへの参加者数
H21年 9人 → H22年 約60人(予定) (A大学において)

事業の工夫点

①本事業の開始にあたり比較的健康的な関心が高い学生を対象とするため管理栄養士の養成大学を連携大学として選んだ。②県の実態や課題及び専門家による医学的研修会を行うことで目的を明確にした。③大学間の交流の場を設けることにより活動の活性化を図った。④学生が活動成果を発揮できる場（女性のがん予防キャンペーン）を設け、学生の活動への意欲を起こさせた。

事業の効果についての評価・考察

①同世代からの啓発活動の普及効果をねらい、大学生による健康支援活動を行うヘルsteamを設置した。ヘルsteamの学生は研修等を通じ、また活動内容の企画検討を行う中で、がんおよび生活習慣病予防に関係のある栄養・食生活について奈良県の課題および若い世代の食生活の乱れの実態を自主学習できた。また、普及活動を行うことで、ヘルsteamの学生自身が知識不足を認識し、活動を行っていくためには知識の習得、自分の生活改善の必要性を感じたことで、まず、伝える本人の意識が変容できたこと、2年生の学生の多くは次年度も活動を続け後輩の支援を行っていくと考えていることなどにより、今後活動を続けていくための基礎ができた。

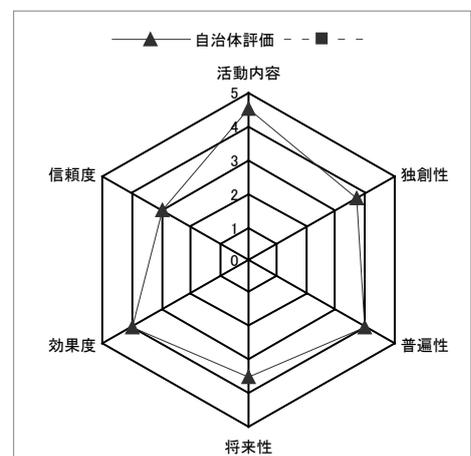
②各大学のヘルsteamが交流し、情報交換や活動報告を行うことで互いに刺激し合い、また、協働によりキャンペーンの企画や啓発物の作成を行うことにより連帯意識が生まれ、今後活動が広がり普及が促進されることが期待できる。

今後の課題

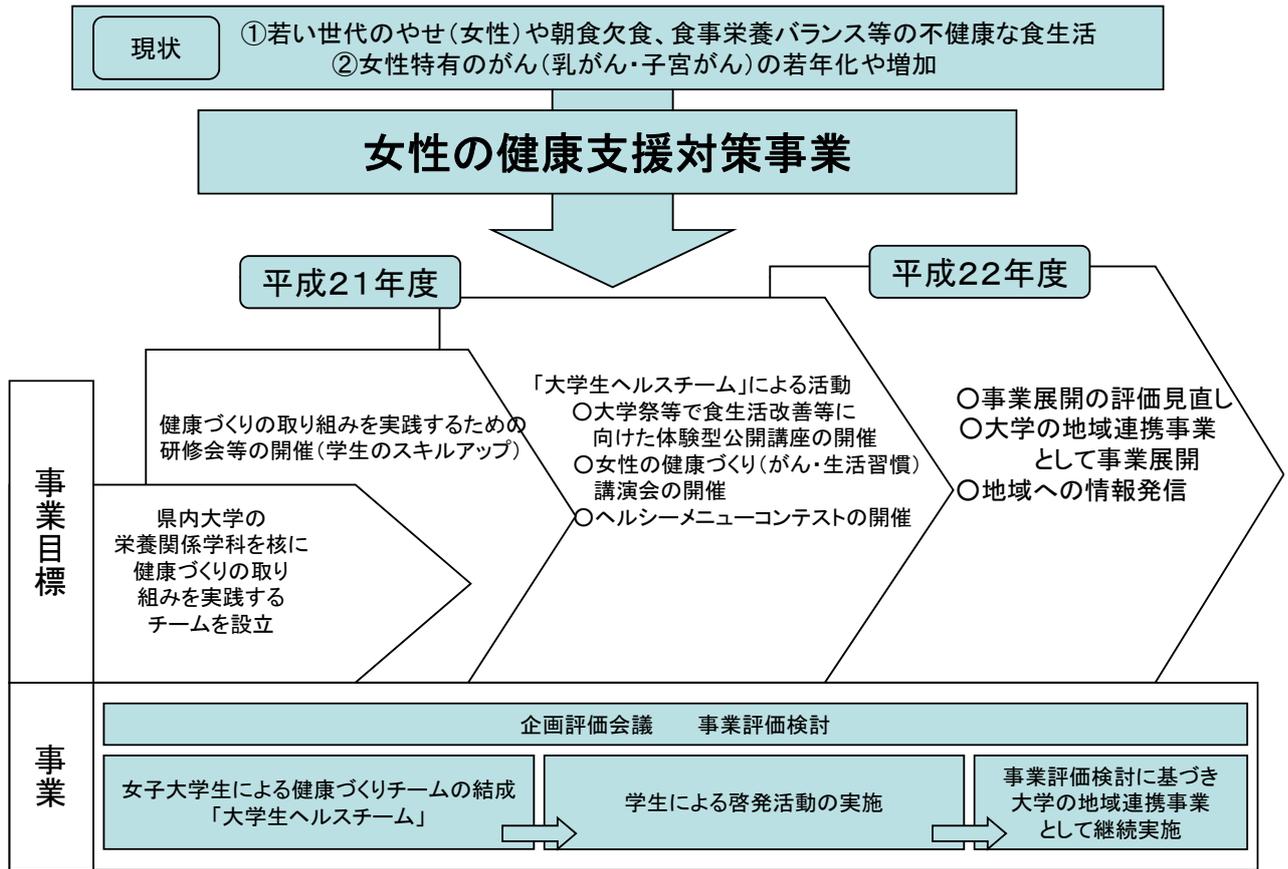
考察にも上げたように、今参加している学生はこの活動に意欲を示し、活動の充実、広がりを考えている。今後は各大学のヘルsteamが、健康づくり支援活動を行うサークルとして学内で定着すると同時に、4大学合同の「ヘルsteam菜良」の活動が広く認められ、自主サークルとして活動を続けていくことが重要である。またそのためには、この活動を後輩学生に継承させ、さらに拡大し、今後大学全体を巻き込んだ体制づくりが必要であるとする。

| | |
|--------|---|
| ホームページ | |
| 照会先 | 奈良県健康福祉部健康づくり推進課健康推進課 TEL 07420-27-8662 |

| 事業評価 | (企画評価委員会で評価) | |
|-------|--------------|--|
| ①活動内容 | 4.5 | 最も食生活の改善が必要と思われる若い女性を対象に、同世代からの働きかけにより、活動の広がりができている。 |
| ②独創性 | 3.7 | 食生活に関心の高い管理栄養士養成大学の女子学生を利用して同世代の女性にアプローチし、効果が期待できる。 |
| ③普遍性 | 4.0 | 他の自治体でも利用可能な事業モデルである。 |
| ④将来性 | 3.5 | 多くの学生に興味を持たせる活動であることが明らかになったが、一方継続していく予算などの確保が課題である。 |
| ⑤効果度 | 4.0 | 事業に参加した大学生の意識は大きく向上がみられた。 |
| ⑥信頼度 | 3.0 | 客観的な指標を用いた事業評価を検討する必要がある。 |



<健康に関心の薄い若い世代への健康支援>



(2) 中高年期における健康支援事業

| | |
|---------|---|
| 事業名 | 働き盛り世代の女性の更年期対策事業 |
| 分野 | <input checked="" type="checkbox"/> 知識の提供 <input type="checkbox"/> 健康相談 <input type="checkbox"/> 情報提供 |
| 事業費（千円） | 588千円 |

事業目的

女性特有の疾患への対応が重要となる中、中高年世代では、更年期問題、乳がんの増加などが課題となっている。しかし、奈良県においてはこれらの課題に対して十分な対策ができていない状況にある。そこで、市町村および健康保険協会と連携して中高年期の健康に関する情報提供を行うとともに、更年期に関する意識調査を行い、今後のニーズに対応した施策を図るための資料とする。

事業対象

市町村の健康教育等あるいは保健指導および健康保険協会が実施する保健指導に参加した中高年期の女性

事業実施体制・展開

- ① 市町村で実施の健康教育において、「女性の健康ガイドブック」により特に更年期および女性特有のがんについて知識の提供を行う。
- ② 健康保険協会および市町村で実施の保健指導時に「女性の健康ガイドブック」により更年期および女性特有のがんについて知識の提供をおこなう。
- ③ これらの健康教育、保健指導時に更年期の症状、得たい情報についてのアンケートを同時に実施し、今後の更年期対策の資料とする。

事業目標・評価項目 及び その結果

- ① 健康教育、保健指導を通じて参加者が更年期の症状や対処方法を知る。
 一般に知られている症状 1位 顔がほてる、のぼせる 70.8% 2位 汗をかきやすい 52.6%
- ② 更年期や更年期症状について、どのような知識を得たいと思っているかを明らかにする。
 1位 自分でできる対処法 62.7% 2位 治療方法 37.8%
 3位 更年期以降に起こりやすい病気 33.7%

事業の工夫点

市町村や健康保険協会と連携をとることで、より多くの対象者に知識の提供を図り、また意識の実態把握を広く行うことができた。

事業の効果についての評価・考察

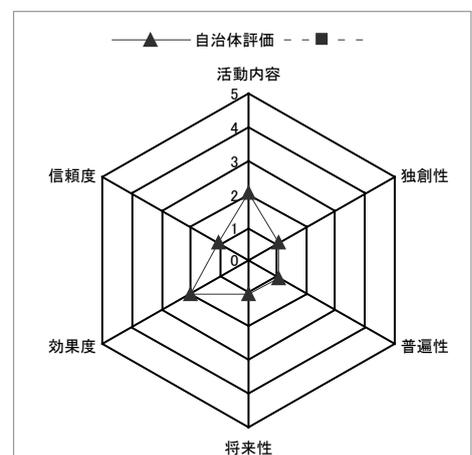
更年期の症状について一般的に知られている内容および更年期や更年期症状について得たい知識が把握できたことにより、ポイントを絞った的確な普及啓発ができるとともに、今後の健康教育および健康相談も住民のニーズにあった内容、手法が明確となり効果的な施策を図ることができる。

今後の課題

更年期について県民が得たい知識について、効果的に情報提供でき、また的確に相談に応じられる体制を整えていく必要がある。

| | |
|--------|--|
| ホームページ | |
| 照会先 | 奈良県健康福祉部健康づくり推進課健康推進係 TEL 0742-27-8662 |

| 事業評価 | (企画評価委員会で評価) | |
|-------|--------------|---|
| ①活動内容 | 2 | 市町村や健康保険協会と連携をとることで、これらの団体にも更年期対策の重要性を再認させることができた。 |
| ②独創性 | 1 | 知識の普及と更年期に対する意識把握しか実施していないので、事業評価をできるまでの事業には至っていない。 |
| ③普遍性 | 1 | |
| ④将来性 | 1 | |
| ⑤効果度 | 2 | 健康教育・保健指導を受けた者は、多少なりとも更年期の知識が得られた。 |
| ⑥信頼度 | 1 | 事業評価できるまでの事業に至っていない |



(3) 女性のがん健康支援事業

| | |
|---------|-----------------------------|
| 事業名 | 女性のためのがん予防キャンペーン事業 |
| 分野 | ■啓発活動 □健康教育 □健康相談 |
| 事業費(千円) | 6305千円 |

事業目的

一人ひとりの女性が主体的に自らの健康に目をむけ、また、がんを自分の問題として考え見つめるきっかけとするため、乳がんもしくは子宮がんを体験したタレントによる講演および医師、学生による女性のがんに関する講座を開催し、女性のがん検診率向上を図る。また、大学と連携し日常生活の中でがん予防が継続できるよう普及啓発体制の整備を図る。

事業対象

キャンペーンに関わった大学の女子学生及び県下の中年期の女性 S女子大学の学生

事業実施体制・展開

1. 女性のためのがん予防キャンペーンの開催

○日 時・・・平成22年3月13日(土) ○会 場・・・ロビーがある500人程度収容できるホール

○キャンペーン内容

- ①講演会 乳がん罹患したタレントから、自らの体験と合わせてがん検診の大切さを訴え、聴衆者が、がんを身近なものと捉えることをねらいとする。
- ②健康講座 産婦人科医、講演をしたタレント、女子大生により講座形式で女性のがんについての情報提供を行う。
- ③がん検診受診促進のための展示ブースの設置
企業およびNPO、県等が乳がん触診モデルやビデオにより乳がんの自己検診方法の啓発およびがん予防のためのパンフレット、啓発グッズの配布。

2. 大学と協働によるがん予防・がん検診受診促進キャンペーンの開催

大学生および大学健康支援室との協働で、学内にキャンペーンブースを設置し、啓発活動を実施。

- ①子宮頸がん予防(HIV、タバコ)およびHPVワクチンに関する情報提供
- ②乳がん自己検診法の普及、検診グローブの配布 ③性感染症に関する健康相談・禁煙相談の実施
- ④がん検診に関するパンフレット、啓発グッズの配布

事業目標・評価項目 及び その結果

○女性のためのがん予防キャンペーンに参加しての意識変化

①乳がん及び子宮がん検診受診への動機付け(調査数185人)

是非検診を受けようと思った・・・58人(31.3%) 機会があれば受けようと思う・・・35人(18.9%)

②受診勧奨への動機付け(男性10人)・・・家族や知人の女性に検診受診を勧めるか。

是非勧めたい・・・6人 機会があれば勧めたい・・・3人 特に勧めようとは思わない・・・1人

③HPVワクチン接種への動機付け(調査数185人)

是非検診を受けようと思った・・・35人(18.9%) 機会があれば受けようと思う・・・77人(41.6%)

○大学におけるがん予防・検診受診促進キャンペーン参加しての意識変化

①乳がんを自分のこととして考える事ができる学生が増える

キャンペーンに参加して一番関心を持った内容・・・乳がん自己検診 (アンケートから 30/32人)

②健康の大切さを知る メッセージボードへの書き込み内容: 検査の重要性について。健康の大切さについて等

事業の工夫点

受講者がより自分の問題として捉えられるように、乳がんに罹患したタレントを講演者とした。また、講演だけでなく、女子大生と講演者のタレントも巻き込んだ産婦人科医による最新情報の健康講座の開催、大学生によるがん予防のための食生活改善に関する展示を行い、多角的に情報が得られるキャンペーンとした。大学でのキャンペーンでは、大学内で開催することにより女性だけでなく男性にも女性のがん検診受診を勧める働きかけを行い、また性感染症予防の知識も合わせて普及を行った。

事業の効果についての評価・考察

女性のがん予防キャンペーンの参加者は346人あり、応募による参集者は中高年が大多数を占め、検診受診者も多くいたが、自己検診や検診受診およびHIVワクチンの重要性を確認し、自分だけでなく家族や知人にも伝えていくという意識がみられ参加者からの波及効果が期待できる。また、スタッフ、その知人等に多くの大学生（80人）が参加し、若い世代への普及啓発も図ることができた。

大学でのキャンペーンでは、テレビドラマで乳がんが取り上げられていた時期であり学生の関心が高く、特に自己検診法については多くの学生が習得できた。マスコミ等社会で意識が高まっている時期に啓発活動をするのも大変効果的であり、様々な機会を効率よく利用することも必要である。

今後の課題

がん予防も若い世代からの働きかけが重要である。そこで、今連携ができていない以外の大学とも連携を密にし、効果があがる機会を捉えて学内や若い世代が集まることところに出向き普及啓発を行うとともに、同世代からの情報発信に効果があることから、大学生による啓発活動の継続への仕組みづくりと若い世代に有効な発信媒体の工夫が必要である。

ホームページ

照会先

奈良県健康福祉部健康づくり推進課健康推進係

TEL 0742-27-8662

| 事業評価 | (企画評価委員会で評価) | |
|-------|--------------|--|
| ①活動内容 | 3.5 | 大学や企業、NPO等との連携による活動で広がりができている。 |
| ②独創性 | 2.5 | 特に目新しい事業ではないが、大学生をうまく啓発に巻き込んだところは、評価できる。 |
| ③普遍性 | 3.0 | 大学との連携による活動の展開は、各自治体でも実施可能と考える。 |
| ④将来性 | 3.5 | 予算上、同じようなキャンペーンの開催は無理であるため新たな視点による効果の上がる啓発を考える必要がある。 |
| ⑤効果度 | 4.0 | キャンペーンの参加者の意識の変化が見られ、そこからの波及効果が期待できる。 |
| ⑥信頼度 | 3.0 | 客観的な指標による事業評価が不十分である。 |

